



経営者と社員が
毎日顔を合わせ、
価値観を共有する朝礼

働き方改革 CASE 04

残業時の 業務内容が見える化 社員の意識向上に効果あり

株式会社 日本エルディアイ

閉校時刻を前倒し 終業までに 30 分の余裕

学習塾と予備校計 11 校からなる東セミグループを、金沢市・白山市・野々市市で展開する日本エルディアイ。少子化によってビジネス環境は厳しさを増しているが、丁寧な指導などによって受講生を増やしている。

同社にとって課題の一つだったのが残業の削減だ。同社の塾や予備校では、以前は閉校時刻である午後 10 時を終業時刻と定めていたが、閉校後にアルバイト講師とのミーティングや事務作業があるため、慢性的に残業が発生していた。そこで、2017 年 3 月から授業のスケジュールを見直し、閉校時刻を午後 9 時 30 分に前倒した。こうすることで、終業までに 30 分の余裕が生まれ、時間内に業務を終わらせる意識が社員に芽生えた。

閉校時刻の前倒しにあたっては、生徒や保護者への周知期間を十分に設け、生徒が塾だけでなく学校の授業にも集中できるよう生活リズムを整えることの重要性を丁寧に説明し、理解を得ながら取り組みを進めたという。

「働き方改革実践講座」の総合アドバイザーである渥美由喜さんによる管理職向け研修を社内で開催して

からは、さらに取り組みを加速させ、残業時間の多い社員を対象に「残業レコーダー」を書いてもらうようにした。これは残業時の業務内容を箇条書きにして全社員で情報共有するもので、残業削減に向け本人の意識が高まると同時に、周囲からも仕事の効率化に向けたアドバイスが寄せられた。これらの取り組みが奏功し、同社の残業時間は以前の半分にまで減少。柳生好春社長は「新たに生まれた時間を、自己啓発に取り組むなど有効に活用してもらい、教育の質を上げたい」と話す。

社員の役割を見直し 新たな取り組みに挑戦

「業務を増やせば社員の負担が増え、社員が疲弊してしまう。新しいことを始める際には減らせる業務がないか見直してほしい」。渥美さんのこのアドバイスから、研修後に社員の間で自主的な業務の見直しが広がったと話すのは同社人材開発マネージャーの山本理沙さんだ。

同社では、新年度から保護者向けセミナーの開催を計画している。教育や受験に関する情報を保護者に提供し、家庭における学習環境の整備やお子様のモチベーションアップの後押しに役立ててもらおうのが狙いだ。

そのため、2018 年 3 月から一人の先生が二人の生徒を教える個別指導はアルバイト講師に任せ、社員はクラス授業に専念することにした。社員が個別指導にかけていた時間を新たな取り組みに充てることで、さらなる教育サービスの提供につなげていく考えだ。

このほか、同社では事務作業の IT 化を図り、今まで保護者やアルバイト講師に印刷、郵送していた書類をスマートフォンで確認できるようにするなど、業務の効率化に余念がない。

一方で、「多少時間をかけてでも、欠かせないものもある」と柳生社長。その一つが各校舎で勤務する社員が毎日一堂に会する朝礼で、経営理念の唱和や 3 分間スピーチなどを通して、組織としての考え方を共有する。

働き方の見直しによる教育の質の向上、そして経営者と社員の価値観の共有が両輪となって同社の成長を牽引していると言えそうだ。



教育の質を上げるにはワークライフバランスの向上が大切と話す柳生社長（左）と推進役の山本さん

DATA

■所在地/金沢市有松 5-8-28 ■代表者/柳生 好春 ■設立/1986 年 ■従業員数/23 名 (男:18 名 女:5 名)
■事業内容/学習塾・予備校の運営